

若い衆カモーン!

…技術もヒトもつながるように…

紀の芽の会 根来幸伸さん28歳の巻（和歌山県那賀郡）

後継者不足が深刻な問題となっている第一次産業。環境保全に情熱を注いできたみなさんも、その意思と技術を伝えられなかったら「循環」が断ち切れてしまいますよね……。そんななか、「息子が後を継いだ」「若い夫婦が新規就農にきた」という嬉しい声も聞かれます。会報では、そんな声を拾いどんどん紹介していきます。ぜひ、「うちにもいるよ!」とお教えくださいね。さて今回はその初回。らでいっしゅぼーやWESTの会員さんには、「みかん狩り」でも親しまれている紀の芽の会の根来宏行さんの後継ぎ、幸伸さんをご紹介します。



根来幸伸さん、裕子(ひろこ)さん、一樹(かずき)くん(2歳)、結和(ゆうな)ちゃん(4歳)

■誇りをムネに帰ってきた!

「僕が小さい頃、オヤジもオカンもじいちゃんばあちゃんもみんな「農業はええでえ、楽しいでえ」と話していたから、農業に対する誇りみたいなものは感じていた。だから後を継ごうと思ってはいたよ。もっと早く帰ってもよかったかもしらんけどなあ」と話す幸伸さん。幸伸さんは、勤めていた店の移転話が出たことを機に今年3月、キレイなおかあちゃんとめっちゃカワイイ孫2人と共に帰ってきました。10年ぶりの帰郷です。

「子どもの頃はよくオヤジについて山に行っとったけれど、手伝いとして戦力になる歳には家を出ていたから、親がどんな農業をやっていたかぜんぜん知らなかった。この前も草刈りを手伝いに山に行ったら、これがまあえらい急斜面。よくあんなとこで、ずっとやっとなあと感心するわ」「オヤジはとにかく無口で黙々と作業する。その分オカンがこうせなあかんとか、そんなんしてええのとか3倍くらい話しかけてくるんやけど、いまは僕のやりたいようにさせてもろってます」。



ご両親の宏行さん(瓜ふたつ!), よしみさん

■まず自分で何でもやってみたい

根来さん一家では果樹のほか、なすやほうれん草も栽培しています。幸伸さんは今年、とうもろこしも手がけることになりました。約1反の畑に植えた5000本のとうもろこし。「ヨトウムシに根をやられてしまって100本くらい倒れてしまった。みんなに聞いたら夕方土を掘ってヨトウをつぶすしかないと言われて、つぶしましたわ……。いちど素手でつぶしたら、えらい手が痛くなって。身も心も痛かったですわ」と語る幸伸さん。新規就農といってもいい状態なので、いまはなんでも聞きまくっています。本を読んだり、種苗会社の人に聞いたり、同じ紀の芽の会のメンバーに相談したりして学んだことをいろいろ実践しています。また、この付近では若い生産者がいないせいか、普及員さんもちよくちよくやって来てあれがいい、こうしたらいいと教えてくれるそうです。

■どんどん人前に出なあかん

幸伸さんは、Radixの会が2月に栃木で開催した小祝塾にも参加。これが初めて出た集まりでした。そこで話される内容が雲の上のできごとのように、「質問しようにも自分は何が分かっとらんのかも分からない状態」だったそうです。「もっと人前に出なあかんー」と感じ、それ以来地元で有機栽培を目指している人に会ったりと、勉強会には積極的に参加しているとのことです。

■脱どんぶり勘定していきたい

農業が大好きという思いが全身から

幸伸さんの

おしえて!
ウラウザ!



とうもろこしの穂がでた頃に1回消毒しましたが、その時にいた虫は死ぬけれどあとからついた虫がどんどん増えてきました。たった1回でかなりの虫を取るテクニックを教えてください。

あふれている幸伸さん。奥さんの裕子さんや子どもたちにも「農業はええでえ、楽しいでえ」と折につけ話しています。「ほんまに、いまは勉強して実際に試してみるのが楽しくて仕方がないんですわ。いろんなことをやりたいと思うけど、代々ある山を守ってかなあかんから、早くそっちも覚えないと」……。根来さんの山は緑豊か。「草ぼうぼうですわね」と除草剤を使わない一家の山を指して誇らしげに話します。ゆくゆくは前職で培った売上管理のノウハウを活かした「どんぶり勘定やない、品目別の人件費まで分かるくらい分析できる農業」を目指したいとのこと。急斜面を親子で草を刈り、山を守る。黙々と作業しているお父さんの思いが幸伸さんにつながり、さらに分析という肉付けがなされ、次の世代へつながっていくのだなあと感じました。(事務局・島田)

裕子さんのつづやき

以前とは違い日に焼けて健康になったし、楽しそうなのはええねんけど、全然休まなくなっちゃって……。子どもたちが保育園休みのときくらいたまに一緒にいてあげてほしいです。

